
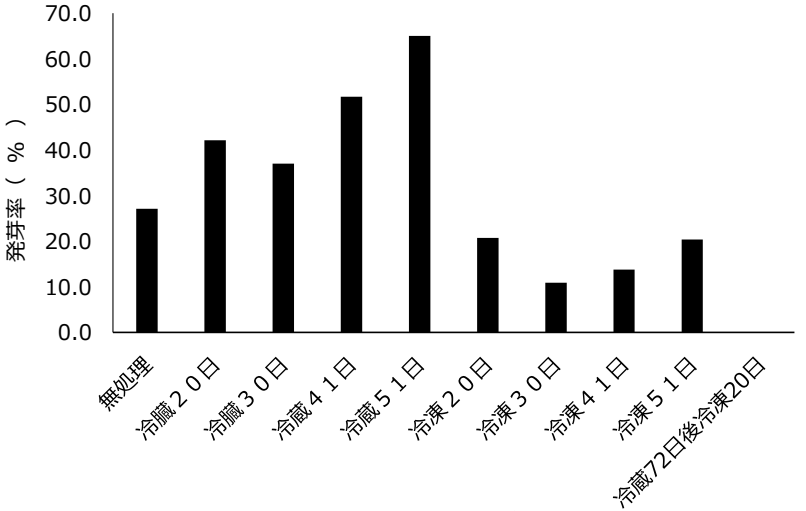


タイトル	本校生物教員、及び生物部生徒による「ムラサキの春化効果」に関する研究
年月日	2021年6月25日
内容	<p>古来より高貴な紫色の染色に用いられてきたムラサキ草は、現在近畿圏では絶滅が危ぶまれるほどに減少しています。本校生物部では、生物教員の指導の下、校庭にムラサキを多数栽培し、温暖化の影響を調べる実験を繰り返してきました。研究の結果、冬の低温期間の減少が発芽率を下げるだけでなく、その後の生育においても、花芽形成を遅らせ、暑さに脆弱になることが明らかとなりました。また、秋に掘り起こした紫根の状態を測定し、ムラサキの好適な生育環境と栽培方法についても考察しました。これらの研究生は、本年度、奈良県生物教育会誌に掲載されました（2018年度SSH生徒研究発表会でも一部ポスター発表実施）。</p>   <p style="text-align: center;">冷蔵・冷凍と発芽率 (44日後)</p>
参考資料	<p>米田敬司：奈良県生物教育会誌, 61(2021), in press. http://www.e-net.nara.jp/kyouka/</p>